

La Vida de Paraguay

La carta de Srta. Natsume

i Hola! ¿Qué tal? 南部中のみなさん。

夏休みも終わり、日本では残暑が厳しい頃でしょうか。体育祭の準備は進んでいますか。南部中の体育祭は、自分たちの手で作り上げる体育祭。その分大変なことも多いですが、苦勞した分だけ楽しさ、喜びも多いはず。素晴らしい体育祭を作り上げてくださいね！さて、今回は、私の配属校 No103 メルセデス・ミルトス小学校があるコルディジェラ県イタクルビの様子を紹介します。



首都アスンシオンから国道2号線を通って車で 1.5~2時間程走るとイタクルビ・デ・ラ・コルディジェラに着きます。他県にもイタクルビという地名があるので区別するため、「コルディジェラの」という意味の「デ・ラ~」という言葉がつきます。

国道やその周辺道路はアスファルトで舗装されています。国道沿いに市役所、警察署や商店が並んでいます。そして教会やプラザ(広場)があります。イタクルビに限らず、多くの町がこのような造りになっていて、町の中心をセントロと呼んでいます。

国道から少し入るとアスファルトで舗装されていない道になります。少し分かりにくいですが、右の写真のような赤土の道や石が敷かれている道がたくさんあります。そして、道端にさまざまな動物もいて、とてもどかな風景を見ることができます。馬車も通るんですよ。

さて、どんな動物がいますか？

まずは、犬。番犬としてほとんどの家で飼われています。野良犬もいます。次に、チャボや鶏。そこから中をてくてく歩いています。そして、一番の驚きは



ルータ ドス (国道2号線)



家から学校へ行くまでの道



牛!!!

飼っている家が何軒もあります。鳴き声もよく聞こえます。少し田舎へ行くと、広い草原があり、牛もたくさん歩いています。車の行く先をふさぐなんてことも。でもパラグアイの人牛も全く慌てません。



さて、日本では、車は左側通行ですね。パラグアイは、右側通行になります。車は左ハンドルです。たくさんの日本の中古車が走っています。パラグアイで左ハンドルに変えられていますが、日よけの所に日本語の注意書きがそのまま残っているのもよく見られます。



先日散歩をしていたら、消防署の前で学校の先生に会い、その先生が一台の消防車を指さして、「見てごらん。」と言いました。「消防車、日本と同じだね。」と返すと、笑いながら「もっと、よく見てごらん。」と。そして、近づいて見てみると、側面に「市」の文字。なんとこの消防車は愛知県豊明市から寄付されたものだということです。各スイッチは日本語表記のまま、内装も右ハンドルのままでした。懐かしくなったのと同時に、同じ愛知県出身の消防車がイタクルビで活躍していると思うと、とても嬉しくなりました。その先生に各スイッチの説明を求められましたが、今の私の語学力では伝えることが十分にできません。だから、「もうちょっとスペイン語が上達したら説明するね。」と約束し、その場を去りました。

散歩をしていると、同じように散歩をしている人や家の前でテレシやマテ茶を飲んでいる人に会います。「オラ!」「アディオス!」と誰とでも声を掛け合っています。私に対しても同じで、気さくに話しかけてくれます。ゆっくり話してくれたり、私のつたない言葉でも理解しようとしていたりしてくれます。だからなんとなくコミュニケーションがとれ、楽しく過ごすことができます。コミュニケーションをとるうえで、言葉だけが大事だとは思いませんが、もっと話せたら、もっと聞き取れたら、きっともっと楽しいんだろうなと日々感じています。急に上達させることはできないので、poco a poco (ポコ・ア・ポコ 少しずつ) 頑張っています(*^_^*)



サッカーのコート



教会